



Title	ラーニング・コモンズの先 : 重なり合うのは人なのか
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/25919">https://hdl.handle.net/11094/25919</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# ラーニング・コモンズの先 ～重なり合うのは人なのか～

<発表用>

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)

大阪大学 附属図書館 利用支援課 (サービス企画主担当)

<July 7, 2012>

情報メディア学会 第11回研究大会, パネルディスカッション  
「重なり合う実空間と電子空間」

:ラーニングコモンズ×ディスカバリサービス」

会場: 筑波大学東京キャンパス文京校舎

# <まとめ>

- ラーニング・コモンズについて  
(概要、海外事例、大阪大学総合図書館)
- 総合図書館での学習支援企画
- ラーニング・コモンズを巡って  
(図書館に? 自己イメージ 小洒落た什器)
- ディスカバリー・サービス
- ラーニング・コモンズ? 教育学習支援?  
(個人的な近い目標も)



# 1. ラーニング・コモンズについて

## ◆背景(1) ITツールの一般化

### IT機器、Web上の情報

\* 学生用のPCが「教育用」だけでなく、「情報の入手・整理・発信」という性格を強めている?

## ◆背景(2) 学習観の変化

## ◆要素

### (1) 物理的資源

: PC, IT機器、場所、従来型図書館

### (2) デジタル資源: Web、オンラインツール

### (3) 人的資源 : 図書館員、IT技術者

(\*) リサーチ、IT、ライティングの支援

### (4) 協働できる環境

+ 学習理論の転換

(参考文献:前頁)

(\*1) 永田治樹. 大学図書館における新しい「場」: インフォメーション・commonsとラーニング・commons. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

(\*2) 永田治樹. 図書館とインフォメーション・commons: 情報社会における共有資源. 情報管理. Vol.53, no.7. 2010.

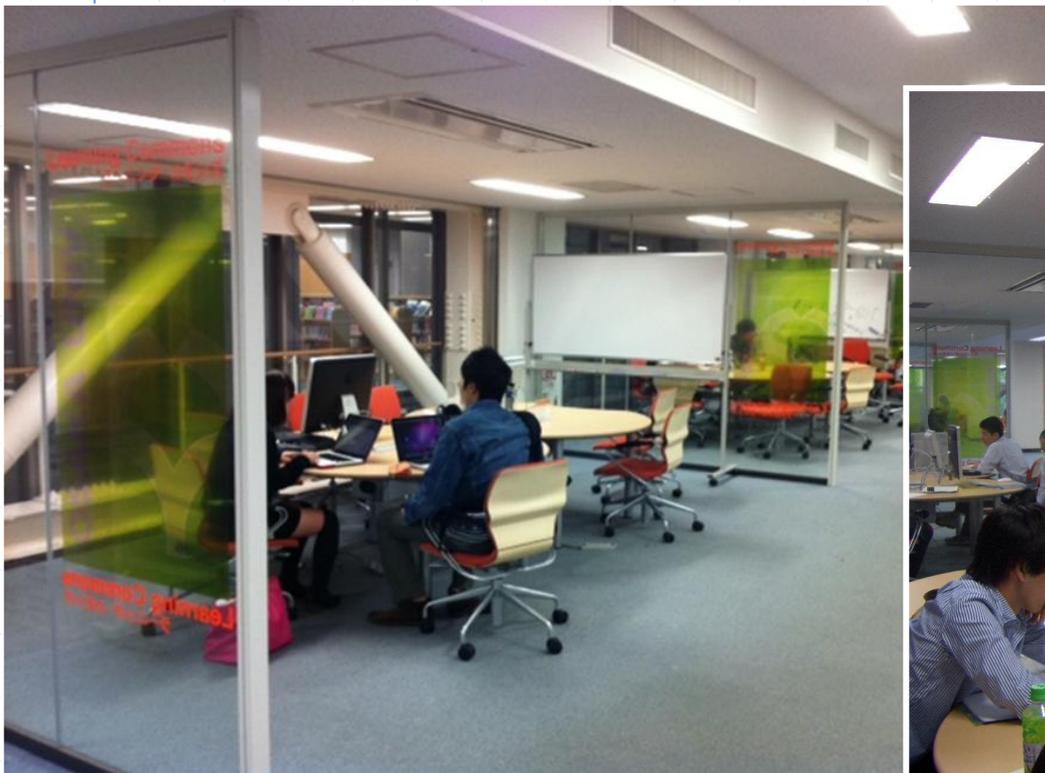
## ◆海外事例

- 2008年2月に訪問
- Queen's University (Ontario, CAN)  
Joseph S. Stauffer Library
- University of Guelph (Ontario,  
CAN), McLaughlin Library





# ◆総合図書館ラーニング・commons [写真]



# ◆ 入館者数と貸出冊数の変化

2010年度の対2007年度比

## <入館者数>

全体 = 1.45

学部生 = 1.61

大学院生 = 0.95

教職員 = 0.97

学外者 = 1.78

## <貸出冊数>

全体 = 1.26

学部生 = 1.33

大学院生 = 1.20

教職員 = 1.02

学外者 = 2.46

- ・1.61の伸びは大学統合効果などを超えていると判断
- ・学内入館者数／開館総時間数 の値も、1.30
- ・ラーニング・コモンズ効果 があるのは間違いないだろうが…  
同エリアの**座席数**は全体の1割にも満たない

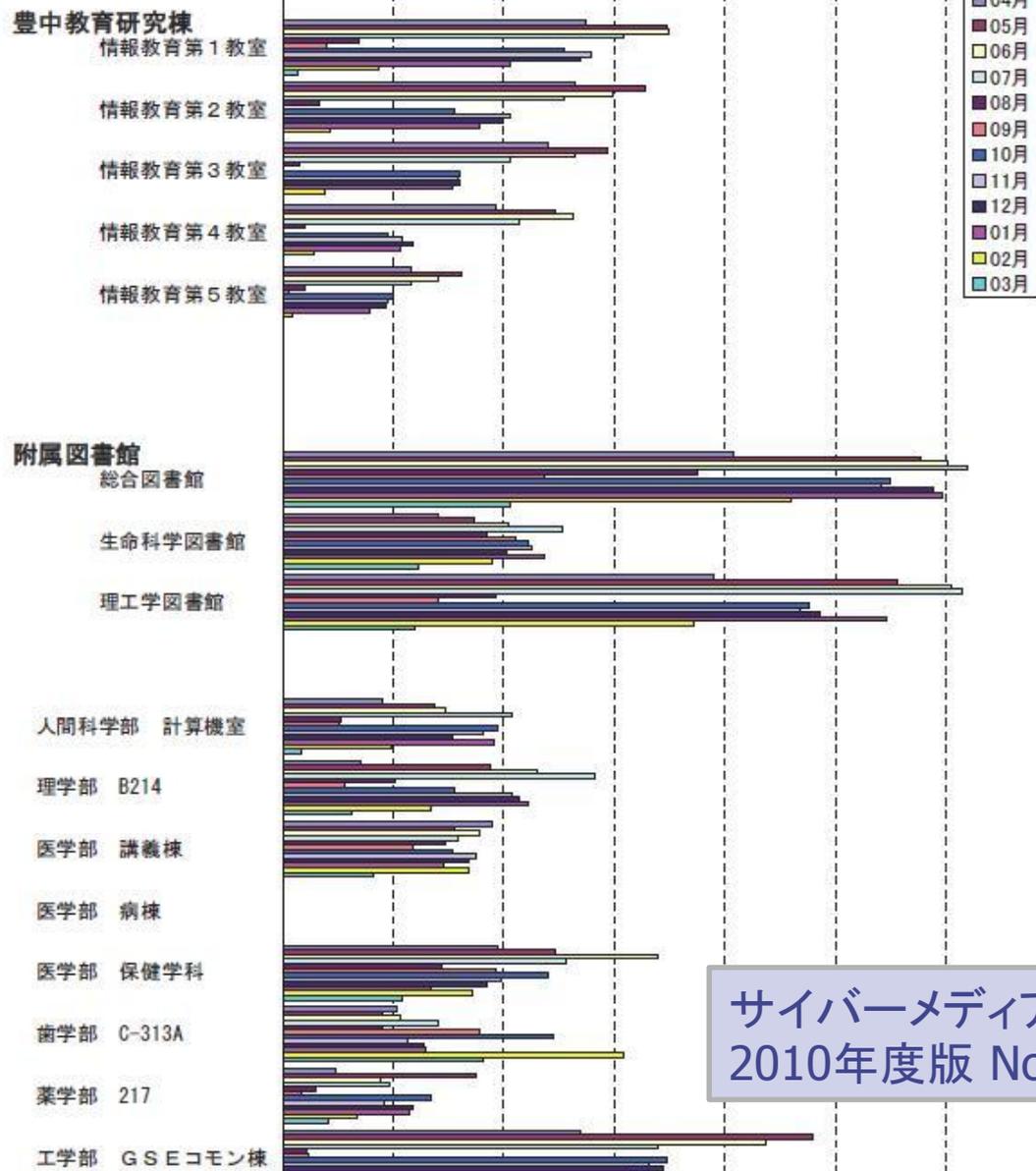
(参考文献) 久保山健. 大阪大学総合図書館の入館者数等の推移：現状の分析からサービス環境向上のヒントを考える. 平成23年度 大学図書館職員長期研修 研修レポート. 2011.9

# ◆ 教室・分散端末別1日1台あたりの平均利用時間(月毎)

(\*)情報教育システムの数値

12

(時間)  
14



サイバーメディアセンター年報  
2010年度版 No.11から引用

## ◆ それらの推移から見えてきたもの

- ・ 場所としての総合図書館は、”学部生向け学習用図書館の性格”が強くなりつつある
- ・ ”場所としての利用”が相対的に増えたことが推測

**但し、今後の課題**

**学習支援企画の商品化・定例化**

**11月開設予定の「国際commons」の活用**

## 2. 総合図書館での学習支援

### ◆「レポートの書き方講座」

- ・全3回、制作・講師は教員、2010年度～
- ・2012年度は、3グループ実施。  
図書館TA、職員も講師を担当

### ◆Teaching Assistant (TA)

- ・各種相談、講習会

### ◆「論文の書き方/文献の読み方 プチゼミ」

- ・全4回、制作・講師は教員と職員、2010年度～
- ・2011年度は、複数グループ実施

## ◆ 図書館スタッフによる「ミニ講習会」

- ・2011年度～

- ・2012年度は回数増加・定例化の方向

## ◆ 「プレゼン入門：話す基本技術」

- ・全2回、制作・講師は職員、2011年度～

- ・4グループ実施

## ◆ 授業でのラーニング・コモンズの利用

- ・半期通しての利用は1クラスだけだが、2012年度は2-3コマ単位での新規利用が2クラス

- ・ニーズや期待を調査したい

## ◆ 課題

- 教員との連携模索
- そのための”商品開発”と定例化  
→ 徐々に進展
  
- 他部局の学習支援組織
- 効果分析、**全学教育の文脈への位置付け**
- マンパワー、スタッフのスキル向上

### 3. ラーニング・コモンズを巡って

#### ◆ 率直な印象

- ・ITの活用される新しい空間（情報系の視点）
- ・PCの功罪（コラボ阻害；複数人での利用）
- ・本は使っていない（後段で否定）
- ・ITサポート窓口は別棟に

## ◆ラーニング・コモンズが図書館にある意味

### ○4月実施の個別インタビュー

- 長所として、本が近くにあることが複数回答

### ○教育学習支援の一つの表現形 単なるポリシー？

## ◆ラーニング・コモンズが図書館にある意味

○教室でなく、情報基盤センターでなく、新規の建物でなく、図書館にあるのは、当然？

- 否定しない。図書館という存在を前提にするのは適切か。
- 逆に「図書館」という枠の固定観念につながらないか。
- 開館時間の長さも当然？
- 授業期間の閉館日。絶滅しつつあるが...

「授業期間の真っ只中に...」「書架整理って、PC関係ないやん

## ◆ラーニング・コモンズが図書館にある意味

- 隣の情報基盤センターが夜遅くまで開館して、PCの配置を変えたら・・・
- 本学の「スチューデント・コモンズ」
  - ・アクティブ・ラーニング的な教室
  - ・ITサポート室
  - ・カフェテリア(ランチ時以外は勉強の姿)
- 自己イメージだけを基に、他部署と協働できるか。

## ◆ラーニング・コモンズが図書館にある意味

### ●学習支援 ≠ ラーニング・コモンズ

(座席割合； 開館時間・休館日； 提供コンテンツ  
全学教育との関わり)

### ●いろいろな要素の中で、ラーニング・コモンズ をどのように活用、落とし込むか

## ◆(補足)「小洒落た什器」

- 「協同学習を誘発する什器 / 空間」は簡単な課題でしょうか。

形は？ サイズは？ カラーリングは？

- 空間作りも実は大きなテーマではないか。

スキル習得はどのように？

「国際コモンズ」什器選定で実感。

## 4. ディスカバリー・サービス

◆「コモン」な場所、「コモン」なツール

◆図書館業界では一部否定論？

・車の運転； 登山； 大学教育； パソコン；  
地図の利用； 賃貸マンション探し・・・

◆学習支援との意外な関係

いくつかの周辺DBの利用増

(\*)飯野勝則氏(佛教大図書館)の報告

「ディスカバリーサービス 導入とその後について経験者が語る」(大図研京都支部ワンディセミナー. 2012.6.2)

# 5. ラーニング・コモンズを作りたい？ 教育学習支援をしたい？

## ◆ 小さな疑問

図書館スタッフの図書館自己イメージは何か。

例えば、館内での議論という状況についていけてない？

## ◆ ディスカバリー・サービスも同様

従来型(といっても最近数年)の文献DBの使いこなし(のみ)の重視？

## ◆ 図書館事業、それとも教育学習支援事業？



## ◆情報資源と場所の提供だけではない新しい役割

### ○近い目標(個人的に)

- ・学習支援企画の積み上げ(商品化・事業化)
- ・教員との接点を"自ら"増やす  
雑談から始めてもいいでしょう。
- ・イベント等での学生の接点を活かす。

### ○交流の促進

- ・新たな協同学習スペース
- ・学内企画「パンキョー革命」でも図書館に言及あり

## <本日の試論> 重なるのは人？

- ラーコモ × ディスカバ ではなく、
- (情報資源＋ITツール＋場所＋人的支援)  
× グループ学習の教育的効果  
＝ 図書館のラーニング・コモンズ
- (情報資源＋ITツール)  
× 利用効率 = ディスカバリー・サービス
- 情報系の人 × 図書館の人 × 教える人 × 学生  
＝ 大学教育の中身・環境の改善

# <まとめ>

- ラーニング・コモンズについて  
(概要、海外事例、大阪大学総合図書館)
- 当館の学習支援企画
- ラーニング・コモンズを巡って  
(図書館に? 自己イメージ 小洒落た什器)
- ディスカバリー・サービス
- ラーニング・コモンズ? 教育学習支援?  
(個人的な近い目標も)

